

研究室名	加藤彰研究室 学会発表
------	--------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

発表時期	2020年3月
学会名	公益社団法人自動車技術会関東支部2019年度学術研究講演会
演題名	小型乗用車を用いたRDE試験に関する研究（第1報）ソーク温度が排出ガスに与える影響
発表者	○賈昊林※、魏嘉奇※、Yavuz Akdag(Usak University)、阿部良治（元株式会社本田技術研究所）、加藤彰
内容	<p>自動車の燃費と排出ガスについては、国や地域ごとに定められた手法、例えば日本であればJC08 モードやWLTC(Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle))モードなどの走行モードに合わせて、屋内のシャシダイナモメータ(以下CD)を用いて計測し、CO, HC, およびNOx などの排出ガスを規制値に適合させることが各国の法律で定められており、その規制基準は年々厳しくなっている。RDE 規制に関してはEU にて2017 年に始まったばかりであり課題は多い。その一つには、実路にはRDE 規制が想定している市街路、郊外路及び高速路のほか、登坂路や高地など多様な道路環境が存在すること、あわせて地域による交通量の差異による走行車速も大きく異なる(1)。また走行時の外気温度などもCO2 や排出ガスに大きく影響するためモード試験と乖離が生じる。本研究は車載排出ガス分析装置PEMS (Portable Emissions Measurement System) を用いて、自動車の排出ガスをソーク温度を変化させ実路走行を行った結果について報告する。この研究は競輪の補助を受けて実施しました。</p>
関連画像	